

# インクルーシブ保育に向けた個別指導計画の在り方についての調査

市川 奈緒子・仲本 美央

## 研究実績の概要

### 【研究の目的】

平成29年度の保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育保育要領改訂・改定においては、「個別のかかわり」の文言が消え、保育の全体計画の中ではかの子ともと育ち合えること（インクルーシブ保育）が目指されていることがうかがわれる。しかし、障害のある子どもの個別の指導計画とクラスの指導計画とのすり合わせやリンクに関しては明記されることなく、各園の考え方に任されている。これでは、クラス全体の指導計画は、障害のある子どもをインクルーズすることなく立てられ、障害のある子どもには加配の保育者が、この子どもを想定することなく作られたクラスの計画に沿った保育に「のせる」べく援助する、ないしは、加配の保育者と対象の子どもが個別に別活動をおこなうという、およそインクルーシブとは言い難い状況を生みがちである。しかし、こうした事態を問題とした、この分野の研究は皆無に近い。

そこで、本研究では、幼稚園、保育園、こども園において、インクルーシブな保育を目指すためには、クラス全体の保育計画と障害のある子どもの個別の指導計画がどのように並び立ち、あるい

は統合されていくべきなのかを探ることを目的とした。

### 【調査Ⅰ】インクルーシブ保育に関する質問紙調査

#### 1. 調査方法

- ①調査時期：2019年6月～9月
- ②調査対象：東京、千葉、栃木、沖縄等許可を得られた自治体の幼稚園・こども園・保育園1004か所
- ③調査内容：インクルーシブ保育の実施状況ならびにクラスの指導計画と個別の指導計画の内容、作成者、作成対象、それらの関係性についてのアンケート調査

2. 結果：433か所からいただいた回答をSPSSで統計処理をおこなった（回収率43.1%）。433か所のうち、認可保育所335か所、認定こども園58か所、幼稚園19か所、小規模保育所12か所、認証保育所1か所、未記入8か所であった。また、443か所のうち、387か所（87.4%）の園が特別支援が必要な子どもがいる、またはいと回答している。その子どもたちの障害状況は表1の通り、個別指導計画の作成状況は表2の通り、個別指導計画とクラスの指導計画のリンク状況に関しては表3の通りであった（いずれもN=387、複数回答あり）。

表1 障害状況

発達障害	285
発達の遅れ	281
発達や行動の気になる子	259
肢体不自由	86
視覚・聴覚障害	55
医療的ケア	45
その他	46

表2 個別指導計画

全員に作成	213
子どもによる	140
作成しない	34

表3 クラスの計画とのリンク

個別計画の中にリンクを記載	177
クラスの計画に記載	108
作成担当者による	32
その他	40

## 【調査Ⅱ】インクルーシブ保育に関するインタビュー調査

### 1. 調査方法

- ①調査時期：2019年11月から2020年3月
- ②調査対象：質問紙調査に協力いただき、かつインタビュー調査への協力を承諾された園のうち、とくにインクルーシブ保育と指導計画に関して独自のかつ先駆的な取り組みをおこなっている14園（保育園9園、幼稚園1園、認定こども園4園）
- ③調査内容：半構造化面接により、インクルーシブ保育の状況とクラスの指導計画、個別指導計画の在り方等について調査した。

### 2. 結果

インタビュー内容は許可を得てすべてICレコーダーで録音し、現在文字起こしをおこなうところである。また、2020年度にはより多くの園のインタビュー調査を予定している。

※倫理的配慮：調査ⅠⅡともに白梅学園大学・短期大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施している。